



福島県立二本松工業高校

同窓会 会報

第1号

平成13年10月27日

発行所

福島県立二本松工業高等学校同窓会
〒964-0937

福島県二本松市榎戸1丁目58ノ2

電話 0243-23-0960

FAX 0243-22-7388

発行者 佐藤昭次

印刷 株式会社丸井工文社

CONTENTS

同窓会 会長挨拶	2
学校長挨拶	3
発刊に寄せて	4
平成十三年度同窓会総会報告	8
会報発刊にあたって	9
母校だより	10



同窓会会長挨拶

「会報発刊に寄せて」

同窓会会報第一号発刊にあたり、ご挨拶を申し上げます。

昭和三十七年四月十日、開校式、第一回入学式を挙行し、安達高校を仮校舎として、機械科、電気科、各一学級でスタートしたと聞いております。

私達、三期生が入学し、初めて全学年が二本松工業高校の新校舎で、校風づくりがスタートしました。やがて、工業デザイン科が新設され本格的に男女共学校となりました。早いもので、平成十四年度は創立四十周年を迎えます。

この節目に「新事業を起こしてはどうだろう」と理事会で検討した結果、『同窓会会報発刊』と賛同を得て第一号編集に至った次第です。

さて、本校同窓会は、この春で、第三十七回の卒業生を迎えまして、八千五百名という、大きな組織に発展してまいりました。

榎戸台地の学び舎を共にした同窓生は、全国各地で活躍されており、喜ばしい限りであります。しかしな



同窓会 会長

佐藤 昭次

プロフィール

昭和41年度卒業・土木科2期生。
10年間の県職員生活を経て、現在、株式会社佐藤組代表取締役社長。総合建設業として、道路、河川、下水道、建築などを施工。“地域と共に生きる”を大切にしながら、社員と共に、鋭意努力中！

がら、近年の社会情勢は、過去に類を見ない程、衰退を続け、取り巻く環境は想像以上に厳しく、皆が精一杯の知恵と汗を流し続け、毎日毎日の対応に苦慮していると推察申し上げます。

めまぐるしく変容する社会の中で各地域社会のリーダーとして、また重要な役割を担っておられる同窓生の皆さん。流れに遅くれを取ることなく、学んだ知識、新産業技術、先々を推測した発想等で前進し、力強く、この現況を乗り越えてください。

在校生の皆さん。築き上げられた伝統の中で、学業、スポーツ両面において、活躍されております。テレ

ビ、新聞等で母校の“名”を聞くたび、同窓生の一人として、大変嬉しく、満足感を覚えます。

皆さんの活躍の様子を、一人でも多くの同窓生に紹介したり、同窓生の情報を伝えたり、一体化できたら会報の意も生じると思っています。

今回、第一号発刊にあたり、ご寄稿くださいました方々に、心から感謝申し上げます。また、新たに取組んだ、会報編集委員のご尽力に、敬意を表します。

今後、この会報が会員相互の情報誌として、幾分かの役割を果たせるようお願い、発刊の挨拶と致します。

学校沿革

昭和三十七年三月十日
薄井恕氏県北工業高等学校仮称の創設事務取扱に任命される。

昭和三十七年四月一日
福島県立二本松工業高等学校として開校。安達高校を仮校舎として機械、電気各一学級で発足する。

昭和三十七年四月十日
開校式、第一回入学式を挙行する。

昭和三十七年五月四日
本校創立記念日に制定。校章を制定する。

昭和三十八年四月一日
機械二、電気、電子、土木科五学級、定員一学級五十名となる。

昭和三十八年四月十日
岳下小学校を仮校舎として、第一学年生徒スタートする。

昭和三十八年七月十九日
仮校舎より本校舎に移転する。

昭和三十九年四月
新校舎で全学年スタートする。

昭和三十九年八月五日
校歌を制定する。

昭和四十年三月二日
第一回卒業証書授与式を挙行する。

昭和四十一年九月十六日
校舎、体育館落成式を挙行する。

学校長挨拶

「同窓会の皆さんへ」

同窓会の皆様には、日頃から物心両面にわたり多大なご援助とご指導をいただき、感謝申し上げます。

お陰さまで教育諸条件も整備され、不況にもめげず昨年の就職・進学共に100%、部活動では今年のカヌー部の活躍が目覚しく宮城国体のカヤックシングルで男女共に県勢初優勝を飾り、充実した状況にあります。

さて、いうまでもなく本校は昭和三十七年春に第一期の入学生を迎え、現在では五科十八学級を擁し今年の三月までに八千五百人の卒業生を送り出し、当地区唯一の県立工業高校であります。来年は創立四十周年を迎え、人生にたとえれば正に働き盛りの熟年期に達し、名実ともに県内外に誇れる工業高校として着実に前進しております。創立以来、生徒達と先生方との間で築いてきた校訓「自立」「協調」「実践」の精神を基調とする理念が脈々と受け継がれています。

今、激変する新世紀を担う工業技術者はITを中心とした先端技術や環境問題等に十分即応できる有能な



学校長

酒井 良英

プロフィール

1941年相馬市生まれ。専門教科機械科。喜多方、小高、川俣、平、塙の各工業高校を歴任され、平成12年本校に着任、現在に至る。趣味はゴルフ、テニス、散歩。生活信条は「一期一会」。

人材でなければなりません。それには専門性の基礎・基本の確実な定着と豊かな創造性と感性を生み出す柔軟な頭脳と強靱な精神力が必要となります。縁あつての本校との出会いを大事に受け止めて、どのような社会状況にも対応でき、特に地域産業界の要請に応えられ貢献できる工業人の育成に心がけ、本年度も重点努力目標を四つにまとめてみました。

- 一、進路実現に向けた学力の向上
- 二、基本的生活習慣の確立と「4+1ない運動」の徹底
- 三、部活動の活性化と各種国家資格取得の奨励
- 四、教育環境の整備と美化

これら四つについて先生方に示

昭和四十二年三月一日
校旗を制定する。

昭和四十二年四月八日
電子科に初めて女子九名入学する。

昭和四十四年四月一日
工業デザイン科（女子生徒のみ）新設する。

昭和四十六年十一月十三日
創立十周年記念式典を挙げる。

昭和五十六年一月十日
和室新築、同窓会で合宿施設を増築する。

昭和五十六年十一月十四日
創立二十周年記念式典を挙げる。

同窓会記念事業として校歌碑建立。

昭和六十一年三月二十日
グラウンド整地完成。

平成四年十月二十八日
創立三十周年記念式典を挙げる。
記念誌「三十年のあゆみ」発行、
同窓会記念事業として校章、校名を銅板で作成する。

平成六年・七年・八年八月
全国高校カヌー選手権大会
男子団体三年連続総合優勝

平成十二年度・十三年度
母校カヌー部員、各国際大会に出
場し活躍している。

平成十三年三月
同窓会会員、八千五百名となる。

発行に寄せて

「三十年の歳月と高校生」



野地 一司

昭44年度卒・機械6期生。
野地工業所社長。立場上夜の席も多く、健康には注意し暇をみつけては、身体を動かしている。

私が松工に在籍していた当時は、自転車クラブなる部活がありました。卒業し三十一年と言う時間が経過した今、脳裏に鮮明に残る事と言えばその三年間の部活に明け暮れた日々の事柄であります。この三十一年間社会を生き抜く為に仕事を生活している中で世間の荒波に呑み込まれそうになった時何度も、自分を助けてくれたのがその部活であった様に思っています。『精神的にも肉体的にも』松工四十周年となる今その部活に感謝しています。高校生の時はその先の人生など何も考えずに生きていて、時間の使い方がヘタな自分にガツカリしていますが、でも人は大体そうであるのではないかと思ったりもしています。その部活の

延長で、当時クラブの面倒をみていただいた先生そして先輩、同級、後輩と、今でも親交を深めたりして社会を歩んでいます。各々違った仕事をし生活していても、共通の話題がある事は人間本心に心とごむものです。現在は当時の仲間とはもとより、自転車を楽しむ人達と共に中年ママチャリクラブを結成し県内各地を走り廻っています。もし感心のある方は是非どうぞー。

名称 IBC・Vicito

「若い人たちに一言」

鈴木 則雄

昭42年度卒電気4期生
(株)鈴木電気社長

会報の原稿依頼を受けて、久しぶりに母校の事を思い出しました。私は、第四回の卒業ですが入学時には体育館も無く、グラウンドもまだ荒れていましたし、屋内スポーツの部活は視聴覚教室や廊下を利用してそれなりに頑張っていました。今では楽しい思い出のひとつです。さて私は現在、施設管理（メンテナンス）関係の仕事をしています。

実は以前からメンナンスの仕事がしたくてずっと狙っていました。しかし、問題がひとつありました。それは仕事に必要な資格（免許）を何ひとつ持っていないかったのです。思い切って今までの会社を辞めて一年掛けて最低限必要な第二種電気工事士、二級ボイラー技師、危険物取扱者、三種類の免許を、いろいろな人の助けを借りて取る事ができました。実際この仕事に従事してみると、私の思っていた通り非常に面白い仕事です。色々な機械、部品との付き合いですが、人間関係と同じく千差万別で難しい反面やりがいがあります。後悔先に立たずといいますが、取れる免許は若い時に取るべきだったと反省しています。若い人達に一言、資格は役に立つても邪魔にはなりませんよ。

「後輩諸君時代の先を読み世界に目を向けよ！」



武田 勇夫

昭45年度卒・電子6期生。
松下電器産業(株)福島工場勤務。年に2～3回海外に技術指導に出掛ける。

先見の目を養う事の重大さを社会に出てから実感した事があります。学生時代、七島真太郎先生の我々に対する電子工学の教えに、トランジスタは信号増幅の為の素子では無く将来必ずスイッチ（1か0）にしか使われないだろうと言ってデジタル理論を基礎から教えてくれました。当時真空管からトランジスタに切り替わった頃です。素直な我々はその教えを学びました。社会に出て見習期間を経て電子回路設計に携わるに至り当所アナログ回路全盛時代で他に遅れを取っていましたが、ある時期を境に、CD、MD、DVDと、デジタル信号を操る時代になり当時の教えが最大の武器となり回路設計理論の講師に抜擢され現在は世界中（松下関連会社、工場及び東南アジア諸国）に於いてデジタル応用理論の指導をしています。その仕事を通じて、海外諸国では工業技術者特に電子工学が不足しており日本国内に於ける就職難とは裏腹に仕事は幾らでも有ります。外資系の会社、日本の海外工場、発展途上国の技術指導者等々の現地採用の選択肢も有り自分の可能性を試す意味でも世界の文化に触れる意味でも恐れず挑戦して欲しいものだと思います。

「学生時代の思い出」



本多 真道

昭42年度卒・土木3期生。
東和町役場勤務。

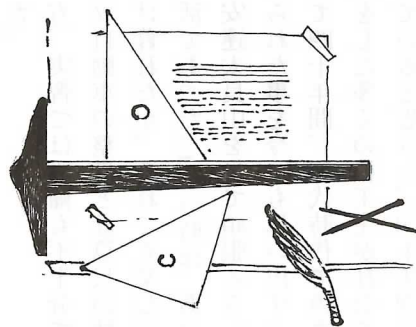
昭和四十三年三月。私は社会という大空に飛び立ちました。現在、東和町役場に勤務しております。卒業してから三十三年の月日が流れましたが同級会を開くたびに高校時代のこと鮮明に思い出されます。

入学当時は、新設高校のため、校庭ではブルドーザーの荒々しい音がなり響いていました。そのような状態です。当然、体育館やプールなどはありませんでした。体育は専ら、運動の基本である「走る」ことが主でした。思えば、私はそんなことから「走る」ことが好きになり、陸上部に入部したのかも知れません。途中で止めることなく三年間所属し、陸上の長距離に没頭しました。最終学年白福駅伝（白河～福島間）では、区間賞を取ることができました。その上、高校生の部において初めて六位に入賞することができました。名ばかりのキャプテンでしたが、

すばらしいチームメートに恵まれたことが、この上ない大事な思い出です。

新設高校とは言っても、春は校内マラソン大会、夏は安達太良登山、秋には校内対抗駅伝大会というように、学校行事は充実しておりました。中でもマラソン大会や駅伝大会の思い出は深く、丹治土木科長や担任の上田先生が、私たちに「激」を飛ばしてくださった、あの熱意は、今でも忘れることはできません。その「激」が特効薬となり、全学年の土木科が優勝と総なめにしたときの感動も記憶に残っています。

さて、当時は、学校での生活指導も徹底されておりました。頭髪はすべて「丸坊主」、トイレのスリッパは揃えることなど、あの頃の私には厳しいとさえ感じました。しかし、就職先などは、新設校ゆえに先生方が新しい伝統を作ろうとして、生徒に好条件の就職先を必死になって探して下さっていた。厳しさの中にも優しさがあったのだと、と今になって気づいています。最後になりましたが、新聞などを見て松工が活躍していることを知ると思わず「我が母校、益々ガンバレ」と大きな声援を送っています。今後も、皆様益々活躍なさることを陰ながら期待しております。



「クラスメートたちへ」



大内 いち

昭46年度卒・工業デザイン1期生。夫（本校電気科2期生）が社長の会社で図面を書いたり、保育士、マラソン、登山と元氣印。

『昭和四十七年三月福島県立二本松工業高校工業デザイン科卒業』

これは私の最終学歴。工業デザイン科一回生四五人が同じ時間をいっしょに過ごしたという証。

今、私達は揃って四八歳。どこから見ても立派な大人の女性。（あるいはオバサン）昔、高校生だったことなど忘れて生きている。私の子どもも高校三年生だ。確かに三十年の月日は流れた。

でも、覚えているよあの教室。担任の五十嵐先生、科長の故松本先生と多感な少女四五人のクラスメート出席番号順に名前も言えるし、席順も浮かぶ。おかっぱ頭の笑顔も笑い声も思い出せる。工業デザインの実習作品の印象さえ。絵画、デザイン画、ポスター、写真、彫塑、製図。

卒業制作の作品は皆、力作だった。修学旅行も工業祭も思い出深い。常に意識させられた『初の工業高校女子クラス』『第一回生』。生徒指導推進校で厳しかった校則。でも、ひたすら楽しかった。みんなそれぞれが、夢いっぱいだった。そして、卒業。当時は就職は引く手数多で、私たちも即決で社会に出た。世の中のことなど何も解らずに。それから、前だけ見て自分の道を歩いてきた。

そして今、私も自身の現実を一杯生きている。家庭があり仕事があり、趣味を楽しみ…

でも、あの頃めざした自分になれたのだろうか。みんなはどうしているだろう。あの頃のみんなに逢いたい。十八歳の私自身に逢いたいと思う。あの時代があり、四五人の友がいてそして今の私がいて、これからの未来に続いていくのだから。

「三十年の思い出」



阿相 利和

昭39年度卒・機械1期生。
前同窓会会長。二本松市議
会議員（7期目）。

昨年まで同窓会長を三十年間務め
させていただきました。

この間、同窓生の皆さまはじめ、
先生方や保護者、地域の方々に大変
お世話になりまして、何とか無事に
任務を終えることが出来ましたこ
と、心より感謝申し上げます。

私たちは第一期生であり、先輩が
おりませんでした。八十数名でス
タートした同窓会でありました。初
代同窓会長は鈴木清治君でしたが、
勤務が郡山市ということもあり、た
また私が、学校の目の前にできた
市民会館に勤務することになり「何
かと便利なので」ということで会長
職を引き受けましたが、気がつけば、
それが三十年という長きに渡って
おり、引退させていただきました。

振り返って見ますと、創立十周年、
二十周年、三十周年の記念すべき事
業があり、これに、いささかなりと
も参画出来たことは忘れられない思

い出の一つであります。

楽しい思い出も沢山ありました
が、何よりも悲しかったことは、若
くしてこの世を去った同窓生の悲報
に接した時であります。出来る限り
お別れに参列させていただきまし
たが、今でも心が痛みます。

この度、役員の体制も再編され、
このような「会報」の発刊を見るこ
とが出来ましたこと、大変嬉しく思
います。これを契機に、同窓会活動
が益々充実・発展されますこと、ご
期待申し上げます。

長引く不況と少子化傾向の中、学
校の存続そのものが危ぶまれている
現状にある時、正に、時宜を得た事
業であります。

私もこれまでの経験を生かし、微
力ながら引き続き同窓会発展のため
に努めてまいります。

全国で活躍されている同窓生の限

-TOPIC-



右 阿相利和前会長

り無い発展とご健康を心より願って
おります。

「創立四十周年に思う」



渡辺 和成

昭39年度卒・機械1期生。
同窓会東京支部支部長。日
産自動車勤務。昨年より関
連会社出向。

戦後のベビーブームに生まれた
我々は、昭和三十年代後半の日本経
済成長の真っ只中に高校へ入学した。

当時は経済の成長、進学率の向上
等の社会的要請で二本松工業高校も
創設が決まったものと思われる。一
期生である我々は、ニクラス百名足
らずで仮校舎での出発となったが地
元から松工の生徒は立派であると言
われるように皆んなで校風づくりを
行った。

一方、実習では設備も不十分でポ
ンコツ自動車の整備と計算尺の練習
に明け暮れたが、それでも楽しい高
校生活であった。『辛い時は、あの雄
大な安達太良山を見て頑張ろう』と
教えられた事を今でも思い出す。創
立して四十年間、時代時代で色々な
経験をした多くの松工生が社会で活
躍していると思うと、四十年間の歴

史を感じ、感無量である。在校生も
短い期間ではあるが、何十年か後に
思い出として語れる意義ある学校生
活を送って戴きたい。

「産婆は讀える」
「同窓会の新たな歩み」

館野 勉

旧職員・同窓会初代事務局
局長。田村高校校長を最後に定
年退職。その後女子短大等の
非常勤講師。現在、短大、地
域の生涯学習講座の講師。著
書「コトバとコトバの教育」
「内臓を喰われた男」。

昭和三十七年、二本松に設立され
た工業高校に転勤し、七人の先生方
と創立業務に拘った忘れ難い福島県
立二本松工業高等学校の文字も鮮か
な大きな封筒が、夏も終りに近い八
月二十五日届けられました。何事な
らんと開封してみますと、「今度『同
窓会報』を定期的に刊行するので、
その創刊号に寄稿してほしい」とい
う依頼でありました。

ついにここまで発展したかと、会
則作成などの準備をはじめゼロから
の会運営を転勤までの七年間務めた
私は、わずか八十八名（機械科四十
二、電気科四十六）で挙げた発会式
当時を偲び、感慨無量。心の中で「お
めでとう」を繰り返していました。

会報の定期刊行は、貴会が成熟に向かつて新たな一歩を踏み出したことであり、それは又新たな同窓会の誕生を意味するものでありましょう。貴会の発足や東京支部設立など貴会創成の産婆役の喜びこれに過ぎるものではありません。「同窓会報」の発刊本当におめでとうございます。

「本箱にあった同窓会記録」



佐久間 清

昭39年度卒・機械1期生。
北芝電機(株)勤務。同社松工
会会長。将来に向けて負の
遺産の清算・ISO14001の維
持に向け全力投球中。

今回同窓会の会報の寄稿という思いがけ無いことで何をまとめたら良いか、迷って今、パソコンに向かっています。机の後ろの本棚に同窓会の古い小冊子を見つけました。セピヤ色で何ともいいがたい物です。どうも一番最初の同窓会記録だと思われています。大切にできた自分に感心しています。初代会長は鈴木君、副会長には一緒に北芝電機に入社した阿相、佐藤一君、の名前も見えます。監査には仲間の丹治徹君と記載されていました。本当に二人で監査ができたか？心配です。昭和四一年度の

決算書は予算額二八千円とありました。大変古い記録で懐かしく読みながら思い出しています。とても複雑な心境です。

「四十周年おめでとう」

素晴らしい仲間から

四十周年とのこと大変おめでとうございます。さて、私どもの仲間について触れたいと思います。当社同窓会もおかげさまで今年三五周年を迎え、記念の行事を開催致しました。その中で学校にも何か記念にと仲間の声があり、パソコン一式の贈呈をさせていただぎました。時の経つのは早いもので同窓の仲間も大変充実してきました。物作りの会社で夫々が持っているものを發揮しています。もはや無くてはならない存在感のある人材がどんどん形成されてい

-TOPIC-



左より丹治光世さん、矢吹善行さん

ます。大変頼もしい限りです。又、仕事以外(運動部等)でも活躍しています。国体、天皇賜杯大会、全国実業団大会などにまで出場しています。勿論皆さんの先輩が主役です。素晴らしいことです。今、物作りの企業も大変な時代に突入しています。しかし、彼らがいる限り必ず乗り切れるものと信じています。今後の同窓会の活動に期待します。同窓の当社社員百余名からお祝い申し上げます。

「雑感」



菅野 吉三

昭42年度卒・機械4期生。
三菱自動車テクノメタル(株)
勤務。生涯教育の一貫として、
各種の団体活動に取組
んでいる。

同窓会会報の発刊にあたり、お祝いの言葉を申し上げます。

現在私は地元企業に勤務し、同窓会活動を担う機会が遭遇し、同窓会会報の発刊を心待ちに望んでいた一人でした。

歴史は創られる物と、能動的に創る物とがあると思われま

す。前者は文字通り社会・経済変動等によりその経過が全て歴史を刻む事

になります。後者は自分あるいは組織・自分との関わり合いの中で、自由意志により選択肢の中から、造る事が可能なものであります。

目まぐるしく技術革新や情報伝達が、加速度的な速さで日常世界を駆け巡っております。何時の時代にあつても、ゼロから物事を生み出す生産活動は、絶対必要なるものと極言出来得るものと確信致します。

その源泉となる教育全般に亘る変化・再編が、松工にも影響を及ぼしているものと思われま

す。風光明媚な榎戸の大地に松工が存続する限り、私達同窓生をはじめ在校生も、自分の役割と任務を自覚し自己研鑽により、社会貢献となるよう、社会の重要なページを記すことが肝要であります。

松工と同窓会活動発展の為、精一杯努力された先輩諸兄と、今後の同窓会に入会される人との絆を育む為にも、会報発刊の役割と想いは遠方にある人ほど念願し、郷愁に浸ることが出来るものと推察致します。

今日の礎を築かれた関係各位に、敬意を表し、会報発行の継続と多くの同志が、松工発展の起爆剤となる事を祈念し、夫々の立場で二十一世紀を切り拓いて行きま

平成十三年度 同窓会総会報告

平成十三年度同窓会総会、九月十五日、市内パレスかねすい会場で、盛大に開催されました。

同窓会長、酒井良英校長の挨拶に続き、阿相利和前会長、鈴木孝雄前事務局長に感謝状と記念品を贈呈し労をねぎらいました。

菅野吉三議長により議案（報告・決算・計画案・予算案など）審議され、承認、可決されました。また、同窓会々報発刊の経過報告、次年度創立四十周年に伴い、同窓会として事業を計画。検討は理事会で、行なうことで、承認されました。

総会終了後、別室にて親睦会が開かれ、根本源太郎教頭先生の乾杯発声で懇談。五十代から二十代と年令層広く、校歌、応援歌合唱、応援エールも飛び出し、盛り上がり、別れを惜しみつゝ、閉会いたしました。

平成十三年度 同窓会事業計画

●平成十三年

四月十日（火）

平成十三年度 第三九回入学式（体育館）

四月二十七日（金）

平成十三年度 転入教職員歓迎会（パレスかねすい）

四月十九日（木）

事務局会

五月七日（月）

三役・事務局会

五月二十九日（火）

平成十三年度 理事会

八月二〇日（月）

会報委員会（二本松工）

九月十五日（土）

平成十三年度 同窓会総会（パレスかねすい）

十月二十七日（土）

くろがね祭

十一月二日（火）

平成十四年

●平成十四年

一月二日（火）

同窓会会則説明（各三学年HRTに依頼）

同窓会クラス幹事推薦依頼

二月初旬

東京支部役員との審議会（東京）

二月二十八日（木）

平成十四年度 同窓会入会式（体育館）

三月一日（金）

平成十四年度 卒業証書授与式（体育館）

三月二十九日（金）

平成十三年度 転出教職員送別会

平成十三年度

転出教職員送別会

平成13年度 同窓会収支予算書

1 収入の部 1,712,000円

科 目	12年度予算額	13年度予算額	増 減	備 考
会 費	684,000	1,130,000	446,000	226人×5,000円
入 会 金	232,000	480,000	248,000	240人×2,000円
雑 収 入	171	27	△ 144	預金利息
繰 越 金	201,829	101,973	△ 99,856	
計	1,118,000	1,712,000	594,000	

2 支出の部 1,712,000円

科 目	12年度予算額	13年度予算額	増 減	備 考
会 議 費	150,000	300,000	150,000	役員会、同窓会総会 東京支部役員との打合
行 事 費	60,000	50,000	△ 10,000	入会式
通 信 費	50,000	100,000	50,000	ハガキ、切手
会 報 費	0	400,000	400,000	会報発行費
慶 忌 費	165,000	110,000	△ 55,000	饗別、その他
記念品費	220,000	210,000	△ 10,000	卒業記念品（バンダー）
後 援 費	100,000	270,000	170,000	激励金、応援広告 くろがね祭
事業積立金	300,000	200,000	△ 100,000	
事 務 費	70,000	60,000	△ 10,000	データ入力費、事務用品
予 備 費	3,000	12,000	9,000	
計	1,118,000	1,712,000	594,000	

平成12年度 同窓会収支決算書

1 収入の部 1,102,974円

科 目	12年度予算額	12年度決算額	増 減	備 考
会 費	684,000	669,000	△ 15,000	223人×3,000円
入 会 金	232,000	232,000	0	232人×1,000円
雑 収 入	171	145	△ 26	預金利息
繰 越 金	201,829	201,829	0	前年度繰越金
計	1,118,000	1,102,974	△ 15,026	

2 支出の部 1,001,001円

科 目	12年度予算額	12年度決算額	増 減	備 考
会 議 費	150,000	179,110	△ 29,110	役員会、総会
行 事 費	60,000	18,900	41,100	入会式
通 信 費	50,000	36,060	13,940	ハガキ、切手
慶 忌 費	165,000	95,400	69,600	饗別
記念品費	220,000	199,185	20,815	卒業記念品
後 援 費	100,000	120,700	△ 20,700	激励金、広告
事 務 費	70,000	51,646	18,354	データ入力費、事務用品
予 備 費	3,000	0	3,000	
事業積立金	300,000	300,000	0	
計	1,118,000	1,001,001	116,999	

3 残金 101,973円 次年度へ繰り越し

- 総 会 -



- 役員会 -

-TOPIC-



カヌー部4名に激励金を送る

会報発刊にあたって

同窓会事務局長 渡邊保夫

松工、榎戸台地から巣立った八千五百名の会員の皆様、全国各地でご活躍され、朗報が届く度、喜びを分け載いて、感謝しております。

母校も明年、創立四十周年を迎えます。同窓会でも記念事業を検討中であり、共に祝いたいと思います。

在校生も文武両面から活躍しており、特にカヌー部は日本代表選手として、海外でも名声を高めております。相互の情報を伝授し合い、共に歩みたく、同窓会報発刊に至りました。寄稿下さいました各位に感謝申し上げ、皆様にご愛読戴ければ幸いです。今後、内容充実などに努めますので、ご愛着をお願い致します。

会報の名称を募集

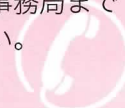
しています！事務所まで
投稿お願い致します！



同窓会事務局より

最近、電話で、同窓会や学校の名前を名乗り、住所や勤務先の調査を行っている業者がおります。

ご不審の時は事務局までお問合せください。



編集後記

会報発刊にあたり、お忙しいなか原稿をお寄せくださいました先生方、同窓生の皆さん、ありがとうございます。初刊でもあり、多くの方々の言葉や記事を掲載するよう企画致しました。そのため寄稿くださった皆様には、字数が少なく苦労されたのではないでしようか。次号からは特集を組んだりして、余裕のある誌面作りをしたいと思っております。

会員の皆様に親しんで頂ける、役立つ会報をつくり出すので、ご意見ご希望をお寄せください。クラス会等で会報が必要な時はいつでも学校の事務局までご連絡ください。お送り致します。

会報編集委員

鈴木 新栄
高橋 周平
本田 正
大柳 正三
石田恵美子

母校 だより

平成十三年四月～九月

校 内 行 事

校内陸上競技大会

男子総合1位 **3E**
2位 **3C**
3位 **2C**
女子総合1位 **1F**



校内球技大会

男子総合1位 **3B** 女子総合1位 **2F**
2位 **3E**
3位 **2D**



今も変わらない
土木の応援！



部 活 動

部創立十年になるカヌー部は、今年スロバキアで開催された「国際ジュニアカヌー選手権」と、二年に一度開催される「世界ジュニアカヌー選手権」(今年はブラジル)に出場しました。時に我が校初の国内大会シングル三位に輝いた鉄地川原歩君(三年機械科)と山田仁美さん(三年工業デザイン科)は、世界で八位と健闘するなど、二本松工業高校カヌー部は、世界を舞台に活躍しています。



福島民報社提供

県高校新人陸上競技大会(2001年9月20日)男子400mで今福力君(2年機械科)が優勝。東北大会出場。

近 況 報 告

●ロボット競技会大会決勝トーナメント出場・特別賞、ユニバーサルデザインフェスティバル2001・教育部門優秀賞を受賞しました。
また、資格取得や進学者の為に補習も盛んに行われ、今後の成果に期待するところであります。
●今夏、図書館にエアコンが設置されました。



世界ジュニアカヌー選手権大会(2001年9月7日から10日)
右から2番め菅野芳恵さん(平成12年度工業デザイン科卒業) 右から5番め佐藤滋君(2年機械科)